

高水分粳を収穫・乾燥・調製する際の注意点

令和8年9月11日
栃木県農政部経営技術課

今年は収穫期の長雨とそれによる倒伏の影響でやむを得ず水分の高い状態で収穫を余儀なくされると考えられます。活発な秋雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため向こう1か月の降水量は平年並か多い予報となっていることから、以下の点に注意して収穫・乾燥・調製を行ってください。

- ① 倒伏の著しいほ場や粳水分 25%以上で収穫する際には、作業速度を抑える、もしくは、刈り取り条数を減らしてください。

倒伏部分や高水分粳を無理矢理刈り取ると選別不良や損傷粒の発生、コンバインのつまりにつながります。

- ② 張り込み量を少なくして下さい。

高水分粳は重く、乾燥機内の循環速度低下やつまりにつながります。総容量の7割程度で運転することで均一に風を循環させ水分ムラを防ぐことができます。

- ③ 収穫後は即張り込み、すぐ送風（通風）を行ってください。

高水分の粳は非常に蒸れやすく、タンクの中に数時間放置するだけで熱を持ち、着色粒やカビの発生を助長させ品質低下が進みます。

- ④ 乾燥初期は低温で乾燥してください。

高水分粳を高温で乾燥すると胴割れ米の発生が増加します。高水分粳は乾燥機への張り込み後通風乾燥を行い、その後は35℃程度の低い温度で乾燥を始め、逐次昇温し乾燥速度を上げます。乾燥機の毎時乾減率は0.8%以下に設定し、品質の低下を防止してください。また、夜間休止乾燥や二段乾燥を行うと、胴割れ米の増加防止や燃料の節減等が図られます。

『夜間休止乾燥』：粳水分が18%になった段階で乾燥を一時休止し、翌朝仕上げ乾燥する方法。

『二段乾燥』：粳水分が18%になった段階で乾燥を中断して、1日程度（24時間）常温通風した後、仕上げ乾燥する方法。

- ⑤ 粳の温度が下がってから粳すりしてください。

乾燥直後の温かい粳は胴割れ米になりやすいため、常温近くに下がってから行い、肌ずれ防止のため脱ぶ率が80～85%になるように調節しましょう。

- ⑥ 共同乾燥施設を有効に活用してください。

保有している乾燥機が使用できない場合は共乾施設を有効に活用して下さい。

9～11月は「秋の農作業安全確認運動」の実施期間です



- ・安全キャブ・フレームのある機種を使用する、または後付けする
- ・シートベルトとヘルメットを着用する
- ・日没前の作業終了と一般道走行に備えて灯火器類の装着、点検をする
- ・わら詰まり等の解消はエンジンを止めてから行う
- ・機械作業者と補助作業者間で、双方向の安全確認を行う

